一般質問（要旨）

として取り組んでいく。

池座 俊子

樹林地の保全は市民参加と協働で～樹林地購入への合意を高めよ

問 ①保存樹林地倍増という「緑の基本計画」達成に向け、現況調査と保存樹林指定への動きは進んだか。②樹林地購入への市民合意を高めるためのプロセスは。③緑化基金1億円のみでなく、財源の工夫が必要と考えるが。

答 ①現況調査は、一覧表の整理等を行った。今後現地確認作業を実施予定。指定の動きは、状況点検や広報で制度の周知を図っている。②今後研究していく。③さまざまな財源確保の方法を研究していく。

まちづくりへの市民参加をすすめるために～庁内連携が必要だ

問 ①視覚障がいのある方への市政情報提供についての基本姿勢と責任部署。②デイジー図書移行へどう対応するか。③子ども議会開催に向け、健康福祉部、教育委員会が連携し、国連子どもの権利条約の意見表明権に沿った取り組みを。

答 ①広報こまえは、朗読ボランティアの協力を得て、音訳テープにより提供している。健康福祉部が負うことになる。②部内、庁内調整を今後も図る。③子ども議会を、子どもの権利を守り保障していく機会の一つとは認識していないことや虐待している親と接触する機会が見出せないこと③5月に市広報で知らせる④ともに向上に努める。

大場 てる子

雨水がしみ込む地表面は市域の2割だけ、みんなで水と緑のまちを

問 ①不明水（下水道に流れ込む雨水や地下水）にかかる処理費は幾らか②市内の湧水は一つもなくなっているがどう思うか③雨水浸透枡・雨水利用など、一人一人の市民ができる水循環の回復を行政とともに進めるべきと思うがいかがか。

答 ①約1億2000万～1億5000万円である。②地下水は、雨水等の地中への浸透作用であることから、その手段を講じていく必要がある。③市民とともに健全な水循環の構築を図ることは非常に重要なことである。

地域福祉の充実にむけて

問 ①高齢者・児童虐待への各対応マニュアルの進捗状況は。②児童虐待での課題は何か。③児童虐待防止は親への支援が必要。広報啓発を望む。④医療関係者・民生委員・社会福祉協議会は地域福祉の要、市との連携をさらに望むがいかがか。

答 ①高齢者虐待マニュアルは早期に発行予定。「子どもの虐待防止マニュアル」の見直しを行っている②親が虐待

正木 きよし

平成19年度予算編成方針、所信表明について

問 平成16年8月31日に出された「市民の皆さんへ、市長より緊急宣言です」が、広報こまえに大きく掲示され、11月15日号の広報こまえに「行財政基盤確立のための緊急行動計画」が3カ年の対策として策定、最終年度にどう総括したか。

答 現在、予算編成の最重点は緊急行動計画の目標達成と位置づけている。17年度の達成状況、18年度の推移を踏まえて19年度は財政基盤確立に向けて全力を尽くしていく。

ふれあい広場、旧七小跡地利用の市民参加について

問 ①ふれあい広場の廃止に伴って代替施設として中学校の校庭開放を考えているがなぜ10月なのか、もっと早く開放すべきではないか。②旧七小跡地利用について、なぜ2年の暫定利用なのか。もっと市民の声を聞いていくべきである。

答 ①学校長との調整、授業等があり学校教育に支障のない範囲で改修工事を行う一定期間が必要。②旧七小を含めた公共施設再編計画を19・20年度で予定していることから2年間の暫定としている。説明会で意見等は取り込んでいきたい。

中学校給食の早期実施について

問 ①平成19年度各校配ぜん室工事等。②平成20年度弁当給食（4校一斉実施）。③二中給食施設基本設計及び実施設計。④一中給食施設実施に向かって検討へ、どこまで進んだか。

答 ①ボックスランチの開始を20年9月と決定。②全校で先行実施。③20年度に基本設計、実施設計、21年度建設工事を行い、スクールランチ方式での本格実施は22年度から。④第一中学校は、設計工事を経て平成23年度から実施予定。

鶴留 美紀

保育園について

問 ①危機管理について、近隣や周辺の人との協力体制は、職員の周知徹底は、また放課後クラブの学童の帰宅の安全対策は。②待機児について、現在105名の不承諾について市としてどう対応していくのか。

答 ①運動会などの催し物の案内を通して、意思の疎通を図り連携に努めている。また職員には防犯に関するマニュアルを作成して不審者対応を図っている。②現在できることは、認証保育所の枠の拡大、保育ママの増員などである。

学童保育とフリープレイについて

問 ①狛江市の放課後児童対策について、一学区一学童保育所と言っているが、今もそれを守っていくのか。②いずれは放課後子どもプランに移行することもあるのか。

答 ①一小学区1カ所の学童保育所が市の方針、ただ将来的には保護者のニーズを機敏に受けとめていく。②内容を見極めて、狛江市にとって必要かどうかで判断していく。

清水 信之

「冬の時代」と「明日があるさ」

問 ①首都圏ワーストワン財政から脱出できるか。②財政ピンチに市民力頼りとはいかがなものか。③公共施設再編方針に丸投げ、先送り批判があるが。④指名競争廃止の入札改革は。⑤職員規律に乱れあり、頑張る市役所は成功せずか。

答 ①ゆとりを生み出せる財政構造にしようと努めている②市民の自主的な活動を応援することによってまちづくりを進めたい③丸投げとは考えてない④国の支援方策をふまえ検討したい⑤職責、役割を果たす志、意欲を持つ職員が大勢いる。

鈴木 利一

市庁舎駐車場の管理について

問 市民が市役所に来たときに、駐車場が満杯で入場できないことがままある。この状況について伺う。

答 狭隘な土地の中でどういったことができるか、また財政状況等を勘案しながら、駐車場がよりよく使える状況の検討の中で今後研究していく。

子どもたちの安心・安全について

問 子どもたちを何らかのトラブル（被害）から守る手段として「かけこみ110番」があるが、この現状について伺う。

答 地域と学校、PTA、警察、行政が一体となり児童を犯罪から守る取組みを進めている。18年度購入のプレートは、設置協力者、緑野小学校の通学路を中心に設置、プレートが割れたり真っ白になっているプレートの取りかえなどを行う。

須田 繁美

安否確認に対する行政の考え方と支援のあり方について

問 ①洪水ハザードマップの作成費予算を18年度に計上し、いまだに市民へ配布がされていないが予定について尋ねる。②災害が発生した場合の安否確認、救出手順、避難場所への避難経路の指定等どのようになっているのか尋ねる。

答 ①3月中旬に全戸配布の予定。②そこにどういう状態の方がいるか常時把握しておくことが必要であり、地域の避難所までの通路指定が可能かどうか検討を要する。又地域で実際の避難経路をつくっていくことも必要であると考えている。

子どもの犯罪被害とその対策と考え方について

問 狛江市の刑法犯件数は減少しているが、出会い系サイトに絡む事件が最多を記録し、小・中学生の事件や被害状況、有害情報のフィルタリング等子どもたちの防犯に関して市の対策について尋ねる。

答 子どもに直接指導するのは難しいことから、3月1日の校長会に保護者にフィルタリングの必要性についてと子どものパソコンにフィルタリングをするように呼びかけをするチラシを配布するようお願いする。

栗山 欽行

～未来を担う人材育成～狛江教育について

問 ①教育委員会の所信が表明されていないことを残念に思う。必要性の認識、今後の方針は。②市教委が掲げる教育ビジョンは何か。③教育委員の研修制度の実施状況は。④市教委主催の教員研修実施状況。必要性に対する認識は。

答 ①教育目標と方針を策定し、毎年示している。②学校選択制や小・中一貫制はとらず、小・中連携地区を目指した。特色ある狛江の教育を目指す。③連合会などの研修に参加。④中学校給食、組織改正、2学期制の検討などの検討を行った。